

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 4月5日更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 36,500～41,600 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 37,000～39,400 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500～17,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～155.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～106.700

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

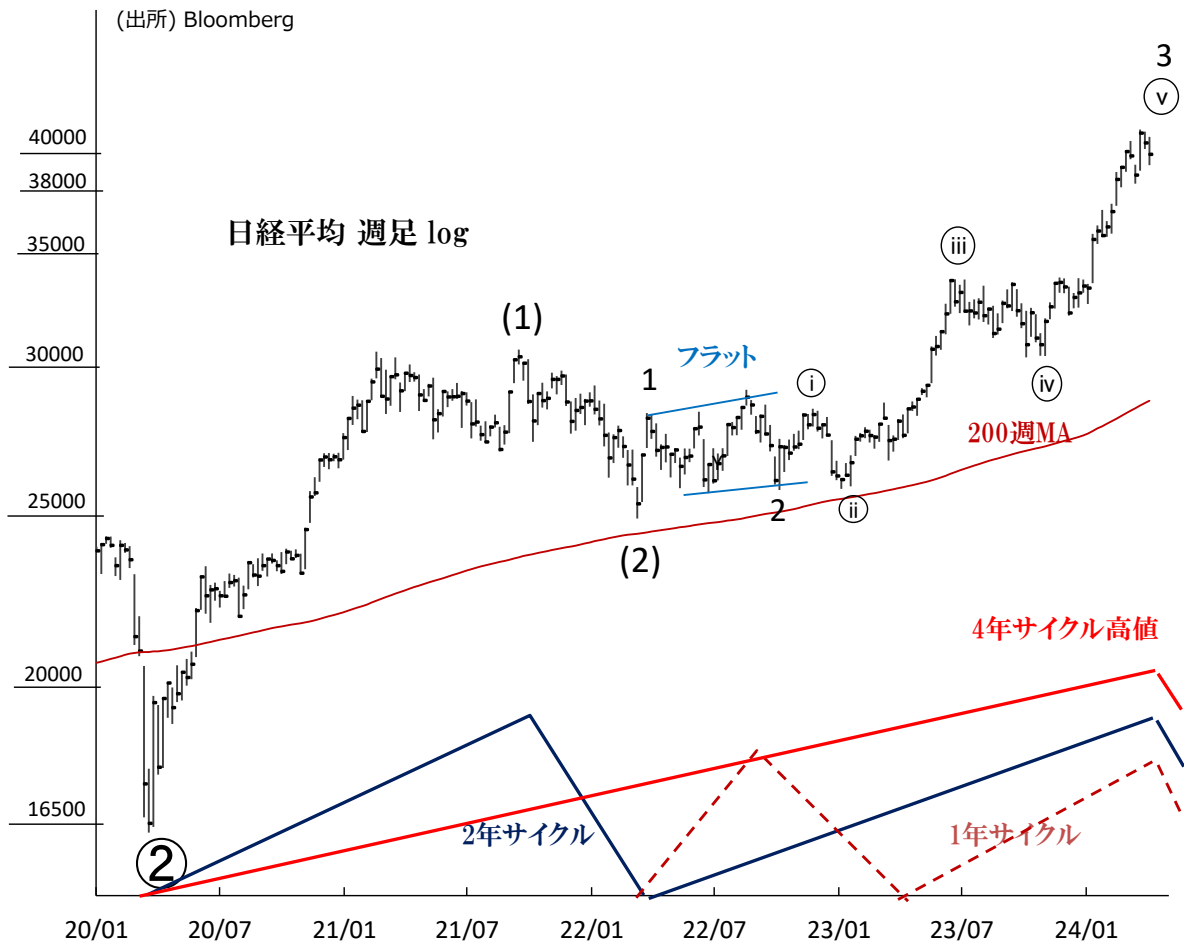
米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均

TOPIX は 89 年高値『2886.50』まで一定の距離を残しますが—現状の NT 倍率からみると TOPIX が最高値に並ぶには日経平均で 42,000 円程度が必要です—今年後半から来年にかけての最高値更新は可能でしょう。



【週足・エリオット波動分析】

24,681 円(22/3/9 安値)以来、③-(3)波による上昇トレンドが進行中とみられます。この「サード・オブ・サード」による大ラリーが終わるのは、おそらく 2025 年以降のことでしょう。

25,621 円(22/10/3 安値)からは(3)-3 波による上昇トレンド。この第 3 波の副次波(マル i~マル v)中マル v 波が、30,538 円(23/10/23 安値)からの上昇に相当します。

マル v 波は終わったか、終えつつあります(マル v 波終了を以て第 3 波も終了します)。この波動カウントが正しいなら、日経平均の第 4 波による調整がまもなく始まるでしょう。

ちなみに(3)-2 波は、およそ半年間続く[フラット]でした。[オルタネーション(交互)]により、来る(3)-4 波はおそらく[ジグザグ]か[トライアングル]になる公算大です。日経平均は第 4 波により、高値から 10%-20%(5 千円~8 千円)程度下げる可能性があります。



【日経平均 日足・エリオット波動分析】

23 年 10 月安値(30,358 円)以来、第 3 波中マル v 波による上昇とみられます。

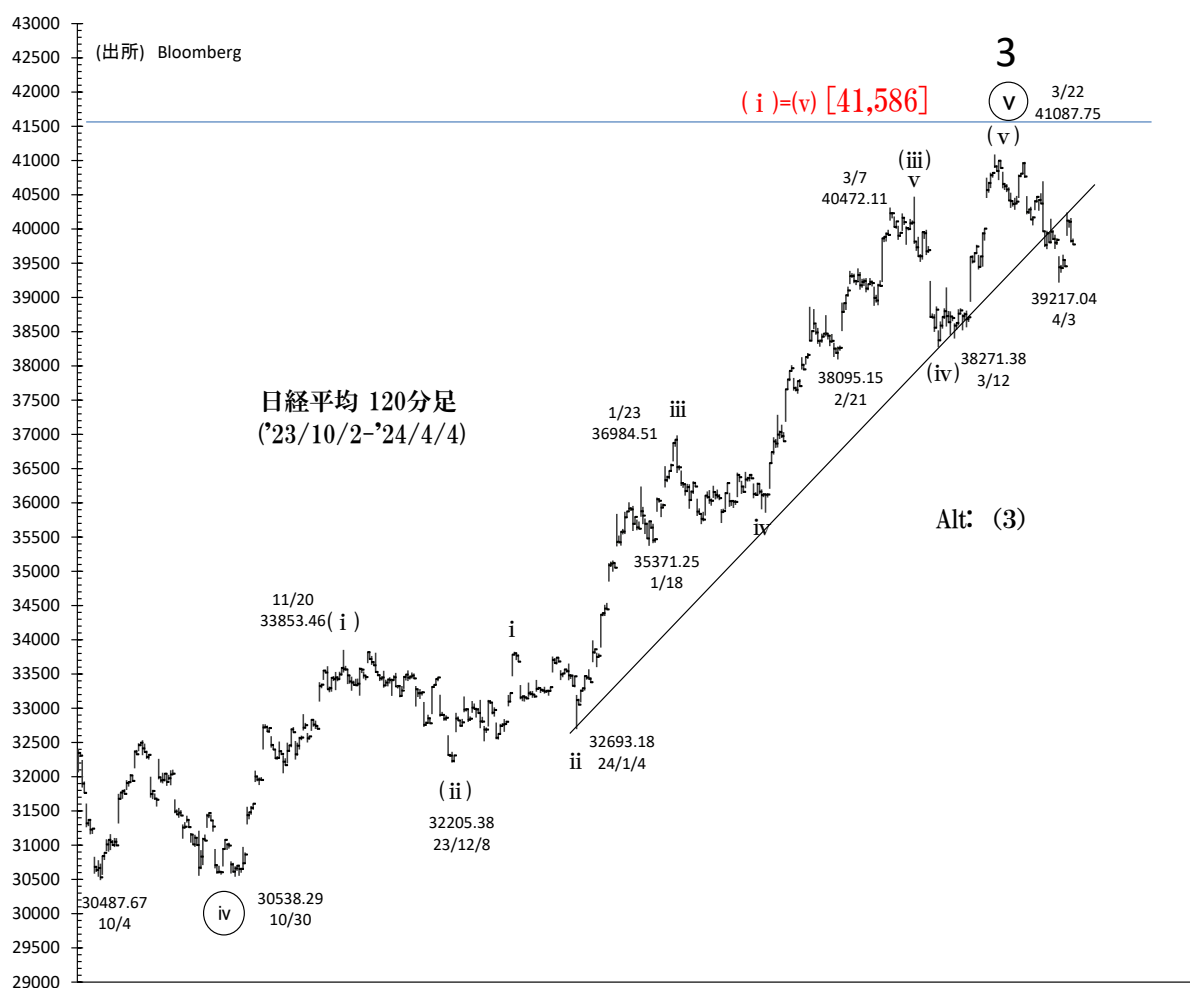
ところで MACD の最初の売り転換は 3 月 8 日のことです。

それは水準的に、23 年 6 月に匹敵する高い位置(左軸で 1000 をやや上回る水準)で発動した弱気シグナルでした。

日経平均は 3 月 13 日から上昇に転じ、22 日にはこれまでの最高値を付けました。その一方、同期間で MACD の高値は切り下がり、28 日には再度売り転換しています。これは「弱気ダイバージェンス」を伴う強い売りシグナルです。

時間足チャートを見ると、マル v 波に必要な副次波は足元までにすべて揃っています。

第 4 波の調整はいつ始まってもおかしくありません。



【日経平均 時間足・エリオット波動分析】

38,271 円(3/12 安値)以来の上昇は、マル v 波中第(v)波とカウントできます。

マル v 波の第(iii)波は—昨年 12 月 8 日安値(32,205 円)から今年 3 月 7 日高値(40,472 円)まで—延長(extension)した波です。

延長する波はひとつであり、残る二つの波は等倍になる傾向が強いとされます。つまり現行の第(v)波が延長することはなく、第(i)波と同じ程度の上昇になる可能性が高いでしょう。

[41,586 円]…23 年 10 月から 11 月までの第(i)波上昇幅(3315 円)と、第(v)波の上昇幅が等しくなる水準直近高値は 41,087 円(3/22)であり、ここからの上値余地は限られそうです。

一方 39,217 円(4/3 安値)を終値で下回ると、既に第(v)波が 41,087 円(3/22 高値)を以て終了し、第 4 波の調整に入ったという見方が優勢になります。この場合、まずは 38,271 円(3/21 安値)への下値試しとなりそうです。

【4 月 4 日 16:05 更新】

NYダウ



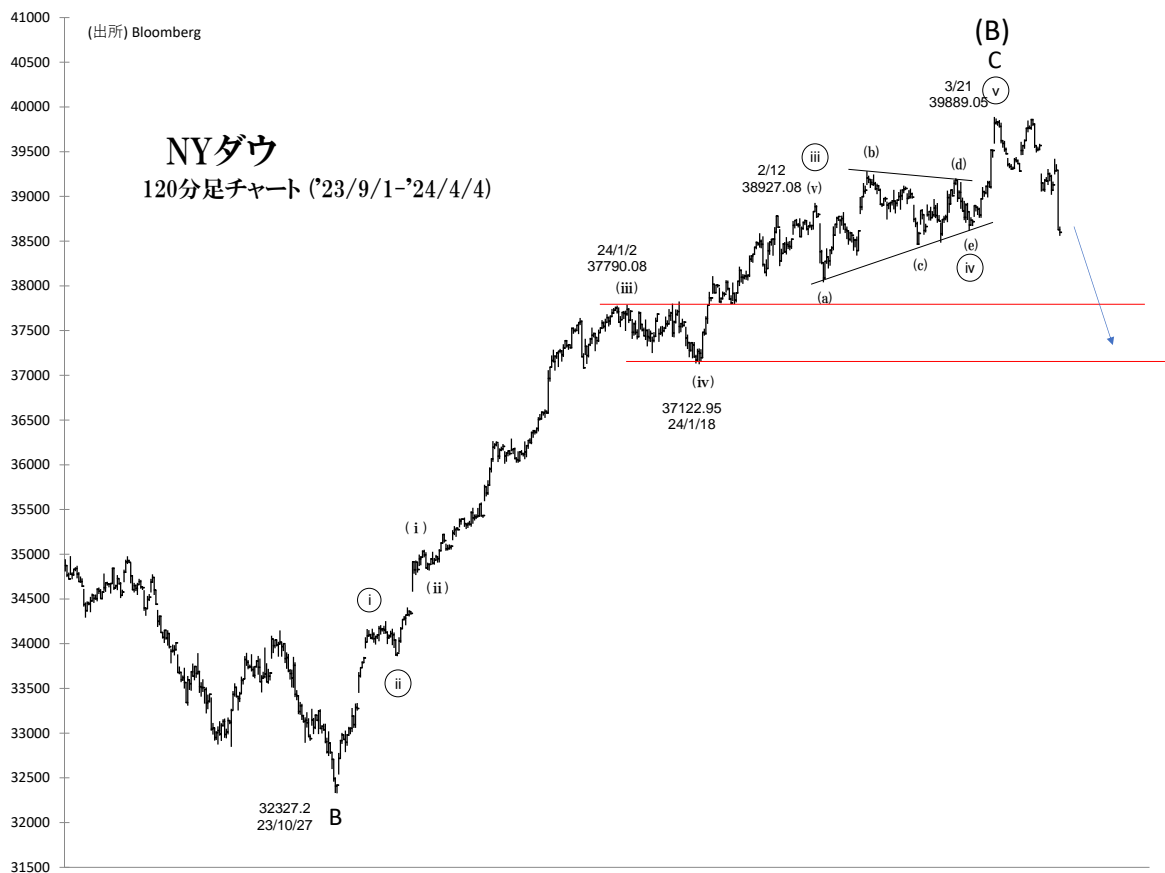
【NYダウ日足・エリオット波動分析】

NYダウは22年1月高値(36,952ドル)から、プライマリー級④波が展開中とみています。④波は[エクスパンディッド・フラット]、[ランニング・フラット]など、複雑なパターンを形成する可能性が高いでしょう。

22年10月安値(28,660ドル)を起点とする上昇は、④波中(B)波による『戻りラリー』に位置付けられます。(B)波はA(↗)-B(↘)-C(↗)の3つの波で構成されます。

23年10月安値(32,327ドル)から5カ月間にわたる(B)-C波によるラリーは、3月高値(39,889ドル)で終わり、(C)波による下落トレンドが始まったかもしれません。

(C)波は5つ波で構成され、(A)波(22年1月高値・36,952ドル⇒22年10月安値・28,660ドル)の22.44%下落に匹敵する、あるいはそれ以上の大きな下落スケールとなるでしょう。



【NY ダウ時間足・エリオット波動分析】

4月5日にNYダウは530ドル安と今年最大の下げ幅を記録しました。この下げにより、注目していた節目の39,277ドル、さらには38,618ドル、これらが立て続けに破られました。

23年10月安値(32,327ドル)からの(B)-C波による上昇(5波構成)は、39,889ドル(3/21高値)で終了し、(C)波による調整局面が始まったかもしれません。

そうであれば、当面NYダウは、レサラー・ディグリー(iv)波の領域である[37,790ドル-37,122ドル]を目指すことになりそうです。このレンジ下限近くには、C波の38.2%押し水準[37,000ドル]が存在し、当面の強いサポートレベルとみられます。

【4月5日 9:13 更新】

ナスダック



【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

21年11月高値からは、プライマリー級第④波に位置付けられます。この第④波の全体像は、[トライアングル]や[フラット]など保ち合い相場が想定されます。

④-(B)波によるリバウンドは終わったか、終わりつつあります。

15,158(1/31 安値)からの上昇パターンは、相場天井に先立つ[エンディング・ダイアゴナル]とみられます。目先の15,925(3/15 安値)を下回ると、ダイアゴナルからの下入れ開始を示唆。この場合ナスダックは、「速やかに」15,158(ダイアゴナル始点)まで下げる可能性があります。

さらに④-(C)波による調整は続き、ナスダックは21年～22年に相当するスケールで下げ基調を強めていくでしょう。

筆者による想定下値レンジは[12,000-10,000]です。



【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)・エリオット波動分析】

22 年 1 月高値 (4068) 以来のパターンは[エキスパンディッド・フラット]、あるいは[ランニング・フラット]と想定されます。どちらのパターンも内部構造は(A)↘-(B)↗-(C)↘です。

[エキスパンディッド・フラット]なら、来る(C)波の下落により、SOX 指数は 22 年 10 月安値(2089)を大きく下回るでしょう。

[ランニング・フラット]だと、(C)波の下落によっても 22 年 10 月安値は維持されます。それでも(C)波のスケールは、22 年の下落(A)波に匹敵する大きなものになると思われます。

当面は 4620(3/19 安値)の去就が注目されます。4620 を下回る動きが生じた場合、それは SOX 指数が 5217(3/8)を以て天井を付け、(C)波の調整に入ったとの見方を強めるものです。

(オルタナティブ・カウント)

22 年 10 月安値 (2089)からはプライマリー第⑤波であり、23 年 10 月安値からの上昇は「⑤波-5 波」に相当します。⑤波に続いて起きるサイクル級の調整局面は、2027-28 年まで続くと思われます。

【4 月 5 日 9:21 更新】

米ドル/円



2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安⊗波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこから2028年頃までレンジ相場を形成していく、というのが筆者による米ドル/円(ドル/円)の基本観です。直近では34年ぶりドル高・円安となっていますが、それも基本的には、レンジ相場内の値動きの一環です。

【月足・エリオット波動分析】

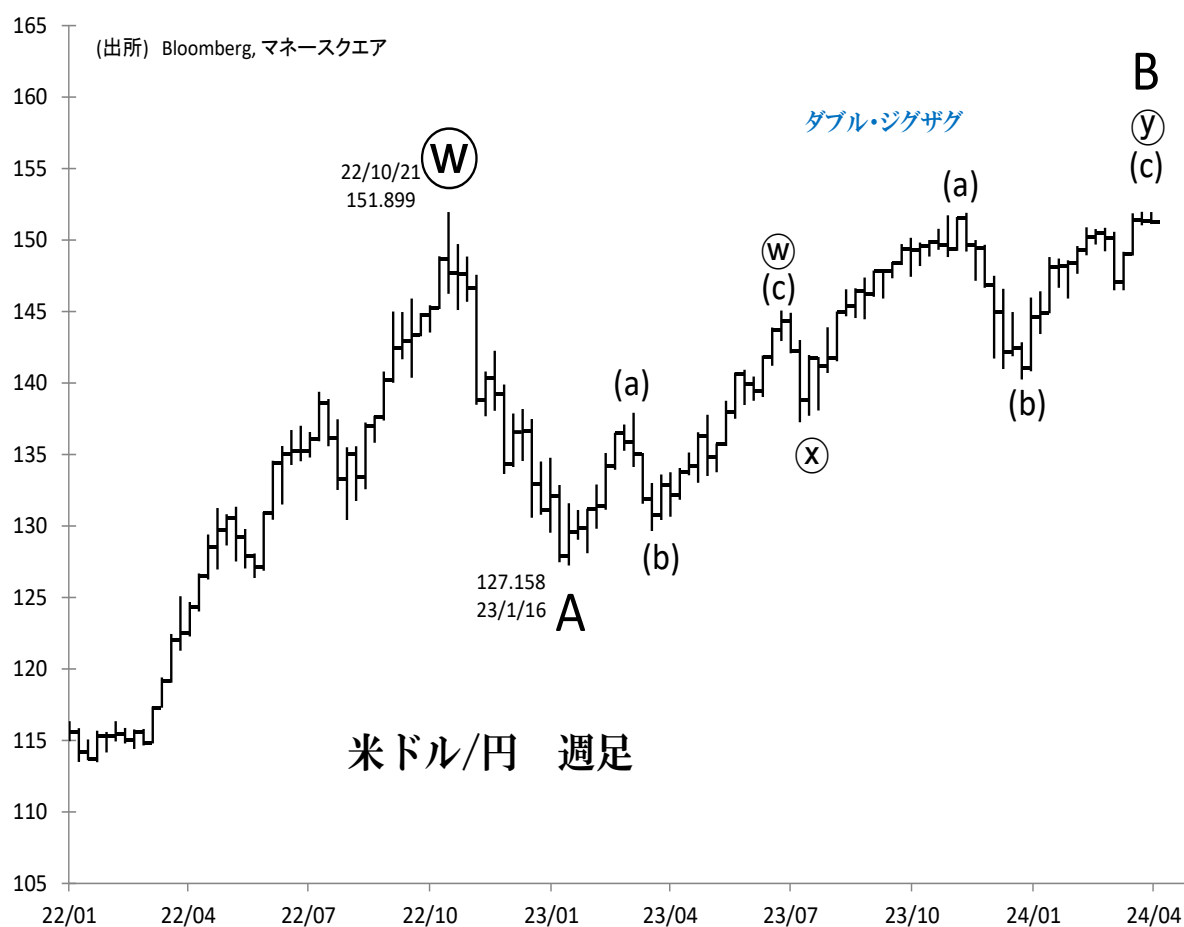
22年10月以来の『円高局面』は、長期円安トレンドにおける中間波・⊗波に位置付けられます。この⊗波は2028年頃まで大きなレンジ相場(トライアングル、フラットなど)を形成するでしょう。

3月27日には一時1ドル=152円に迫り、90年7月以来34年ぶりの円安水準となりました。この動きにより、23年1月(127.158円)からのドル/円上昇(⊗-B波)は継続中とみられます。

日柄的に、ドル/円天井(B波終了)のタイミングは今年(24年4月)かもしれません。

およそ8年間隔でドル/円高値が巡る『8年サイクル』を振り返ると、過去もっとも長いサイクル期間は106カ月(98年8月～07年6月)でした。前回サイクル高値(15年6月)から106カ月が経過する時点が、24年4月となります。

※ドル/円の見通しについては、4月4日発行のマンスリー・フォーカスも併せてお読みください。



【週足・エリオット波動分析】

23 年 1 月 (127.158 円) 以来のドル/円の波動構成は、波の重なりが多いチョッピー (choppy) なものです。これはつまり、23 年 1 月からのドル/円上昇は推進波 (5 波構成) ではなく、修正波としての B 波であることを意味するものです。

B 波は「不規則天井 (イレギュラートップ)」を付けに行く過程にあります。 B 波のパターンは [ダブル・ジグザグ]、足元は二番目ジグザグの最終局面をやっているところとみられます。

ドル/円は 4 月に [153 円-155 円] を打診する可能性があります。

もっとも、B 波が終わると次は C 波によるドル/円下落が予想されることから—C 波は 135 円-130 円を指すでしょう—円安から円高への基調転換に備えたいところです。



【日足・エリオット波動分析】

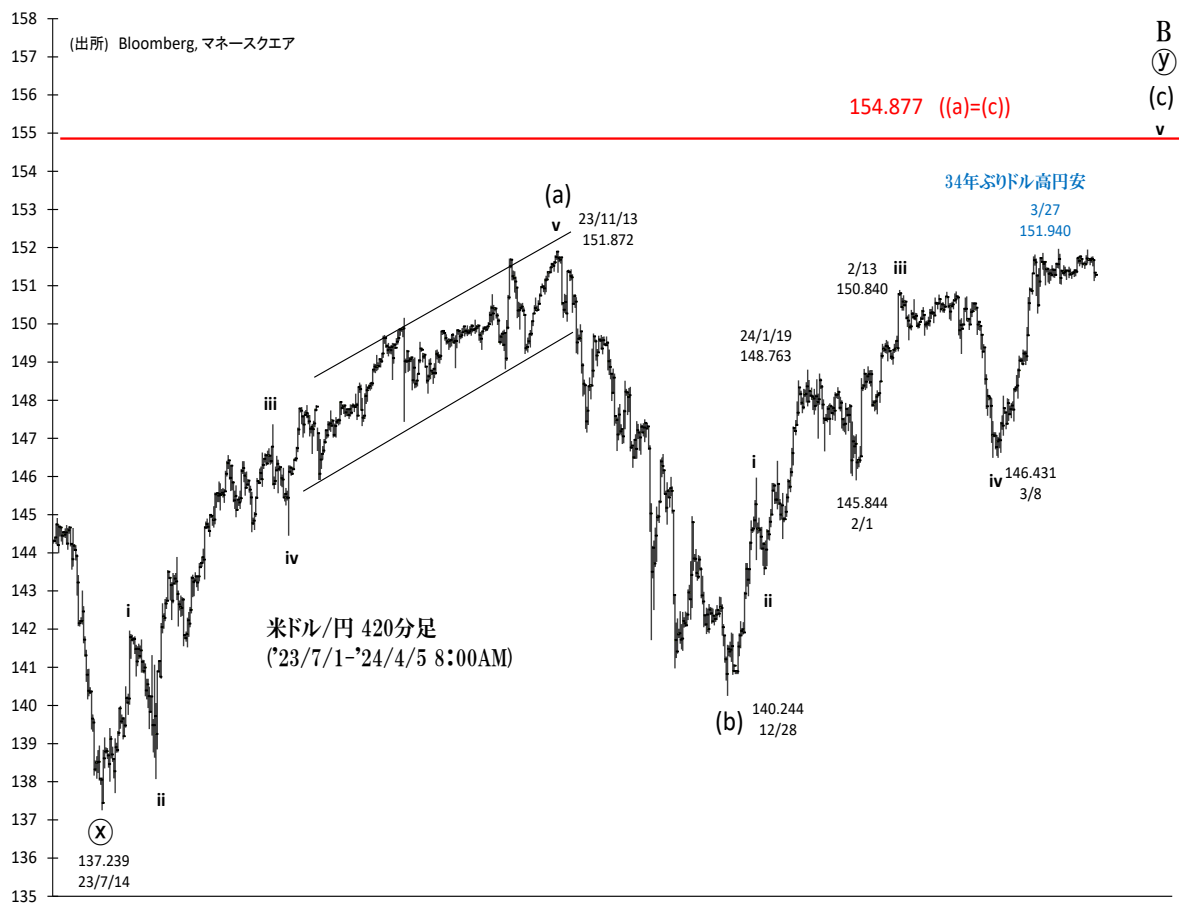
127.158 円(23/1/16)からの B 波は[不規則天井(イレギュラートップ)]を付けにいくところです。不規則天井は「強気のワナ(Bull trap pattern)」として知られ、天井を付けてまもなく、逆方向への急激な反動を伴うことが珍しくありません。

今回のドル/円 34 年ぶり高値は「強気のワナ」となり、遠からずドル/円は急落局面を迎える可能性があります。

上述したように、B 波の波動構成はチョッピーなものであり、パターンは[ダブル・ジグザグ]とみられます。ちなみに、ここからドル/円はいつ高値を付けてもおかしくありませんが、特に 155 円処はチャート節目として要注目です。

[154.877 円]…137.239 円(23/7/14)からの N 計算値

[155.129 円]…二つのジグザグ (W)波と(Y)波が等しく上がる N 計算値



【時間足・エリオット波動分析】

137.239 円(23/7/14)から二番目のジグザグ(a)-(b)-(c)が進行中であり、140.244 円(12/28)からは(c)波による上昇とみられます。この(c)波を構成する5つの波のうち第v波が、146.431 円(3/8)から展開中でしょう。

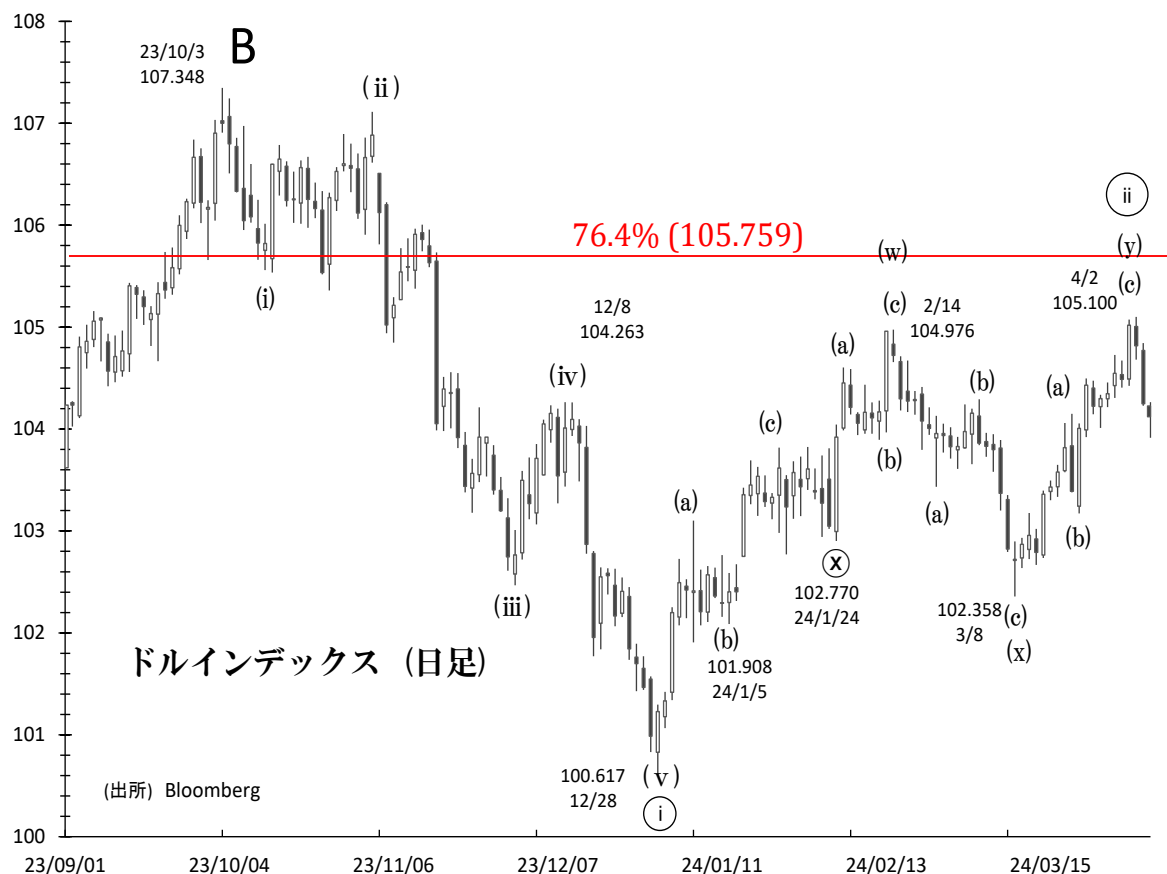
3月27日には一時151.940円と34年ぶりドル高・円安となりました。

急速に円安が進む中で介入警戒感が高まる状況ですが、なおドル/円は上値試しとなる可能性があります。注目される今月は、一時的にも153円-155円へ上伸しておかしくありません。

ただし146.431円を下回る動きが生じた場合、B波のリバウンドが終わったという見方が優勢になります。

【4月5日 9:34 更新】

ドルインデックス (ドル指数)



【日足・エリオット波動分析】

23年10月高値(107.348)からはC波によるドル安に位置付けられ、このC波は5波構成(マルi波～マルv波)になります。

ドル指数は4月2日に3カ月半ぶり高値(105.100)を付けました。一方、ドル指数とほぼ逆に動くユーロ/ドルをみると、4月2日の安値は2月14日安値を下回っていません。つまりドル指数の直近の上昇は、ユーロによって確認されておらず、これはドル指数の潜在的な弱さを示唆しています。

105.100(4/2)を以て昨年12月以来のマルii波は終わり、マルiii波によるドル安が始まったかもしれません。もしそうであれば、今後は昨年12月安値(100.617)を明確に下回る、ドル安が進行していくでしょう。

反面、マルii波によるドル高が継続している場合は、今月から来月にかけてドル指数は下記の水準へ上振れる可能性があります。

[105.759]…マルi波の76.4%戻り水準

[105.907]…同78.6%戻り水準

[106.717]…昨年12月からの(w)波と今年3月からの(y)波が、等しく上がる水準

【4月5日 9:01 更新】

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
